2024年10月期 決算説明資料

株式会社オハラ（証券コード：5218）

Dec.12th.2024

CONTENTS

1 2024年10月期 決算の概況

- 2024年10月期の状況
- 業績サマリー
- 光事業
- エレクトロニクス事業
- 営業損益増減要因
- キャッシュ・フロー

2 2025年10月期 業績見通し

- 見通しサマリー
- 今後の事業環境について
- 光事業見通し
- エレクトロニクス事業見通し
- 半期推移まとめ
- 電子基板用低誘電ガラス市場への参入（進捗状況）
- 設備投資、減価償却費、研究開発費
- 中期経営計画の進捗（1/2）
- 中期経営計画の進捗（2/2）

2024年10月期 決算の概況

2024年10月期の状況

事業環境

■世界経済は一部の地域で成長の鈍化がみられたものの、インフレの沈静化もあり、緩やかに持ち直す動きが見られた

■ロシア・ウクライナ情勢の長期化や中東情勢、中国における不動産市場の停滞、欧米における高い金利水準の継続、不安定な為替相場など、先行き不透明な状況

■カメラ市場は、スマートフォンの普及などによって縮小したものの、高品質な映像表現を求めるプロやアマチュアの需要が底堅く推移しており、ミラーレスカメラを中心にレンズ交換式デジタルカメラ及び交換レンズは堅調に推移

■半導体露光装置市場は、パワー半導体需要や生成AIに使用されるメモリ及びロジック半導体需要が高まったことなどから、装置の需要が堅調に推移

■FPD露光装置市場はパネルメーカー各社の設備投資は弱いものの、需要の改善傾向が見られた

当社状況

■光事業の売上は、交換レンズ用途におけるサプライチェーン内の在庫調整は第4四半期でほぼ解消したが、光学プレス品、光学ブロック品の販売が前期水準まで回復しなかったことから減収

■エレクトロニクス事業の売上は、半導体露光装置用途の堅調な需要が続いたことから、特殊ガラス、石英ガラスともに好調に推移し増収

■営業損益は、光事業の生産設備の稼働率が第2四半期を底に徐々に良化し、エレクトロニクス事業では高付加価値品の販売が増えたことから全体では前期並みの水準に回復したものの減益

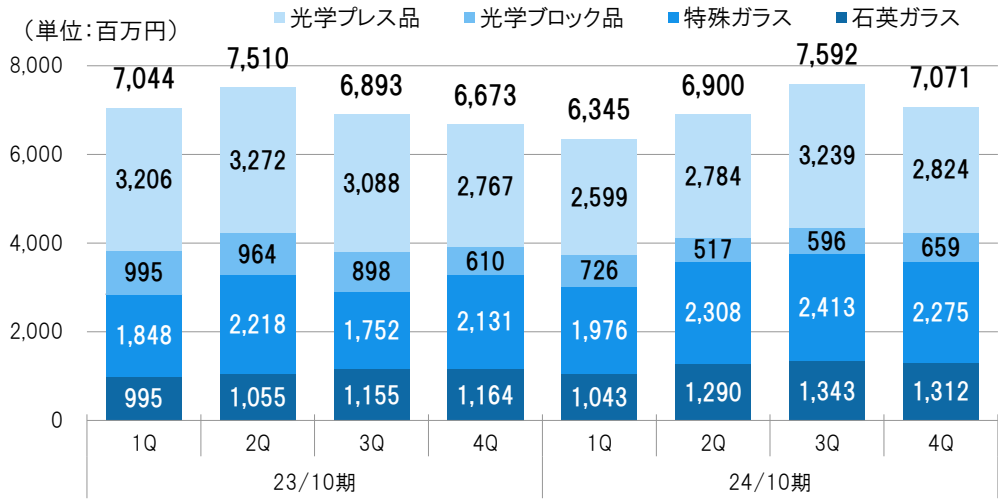
Copyright© 2024 OHARA INC. All Rights Reserved.

業績サマリー

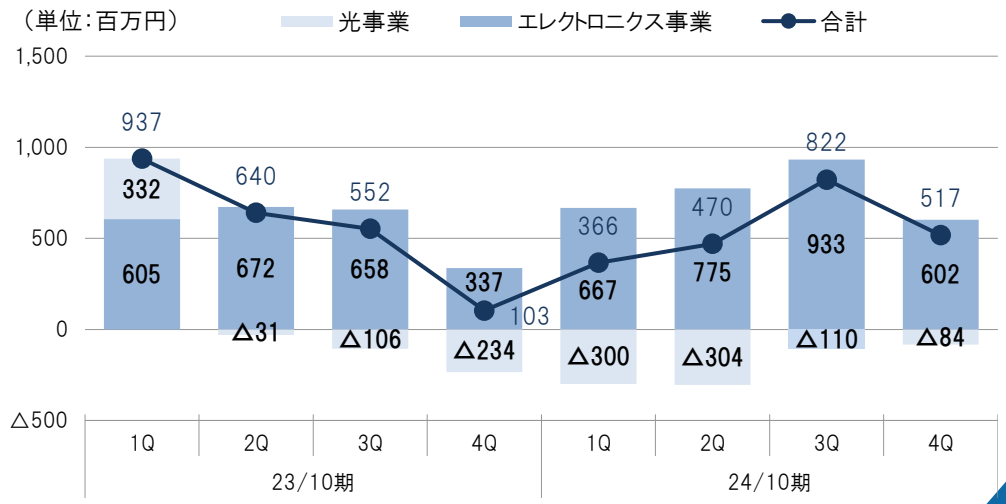
（単位：百万円、%）

	23/10期 通期	24/10期 通期	増減 増減率
売上高	28,123	27,909	△214 △0.8%
営業利益 [営業利益率]	2,233 7.9%	2,177 7.8%	△56 △2.5%
経常利益 [経常利益率]	2,603 9.3%	2,587 9.3%	△15 △0.6%
純利益 （親会社株主に帰属） [純利益率]	1,572 5.6%	1,568 5.6%	△3 △0.2%
為替レート 円／1USD 円／1EUR	期中平均 139.28 149.49	期中平均 150.54 163.59	

売上高四半期推移



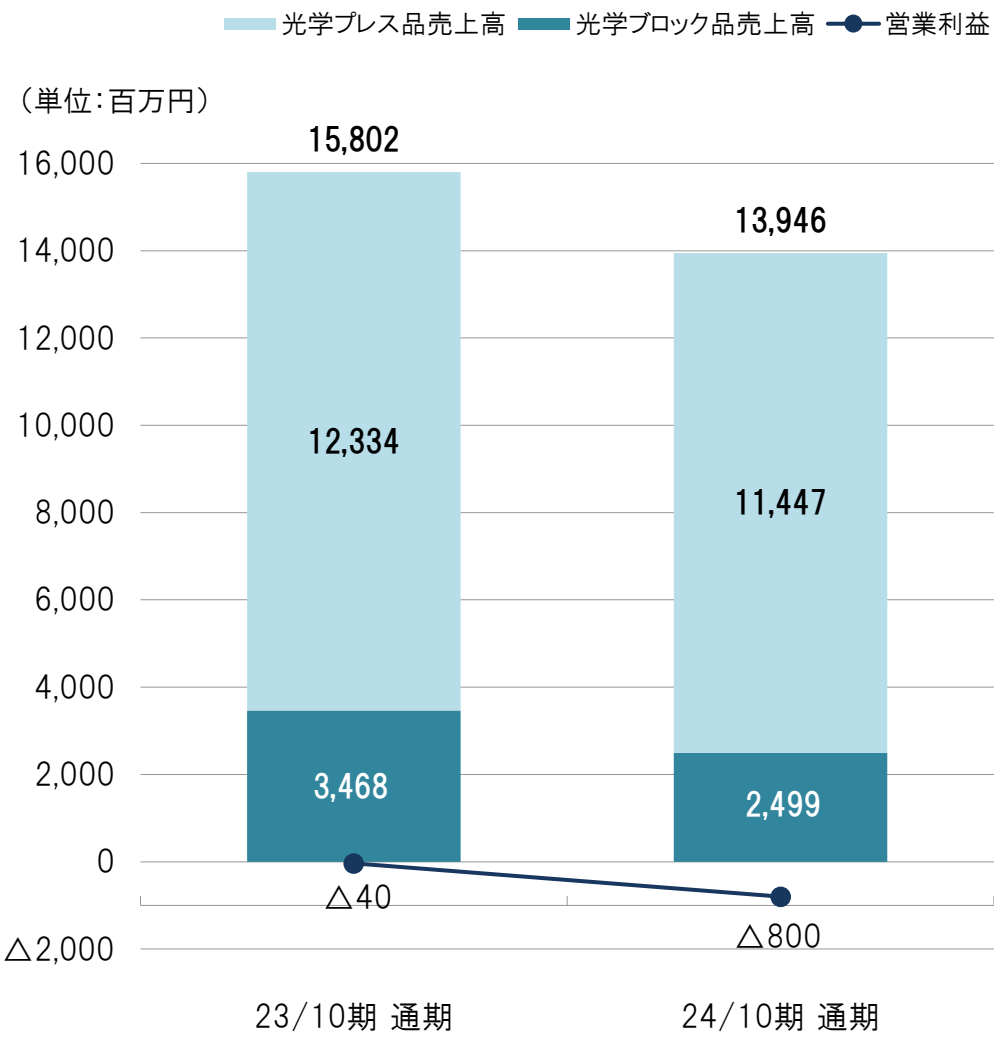
営業利益四半期推移



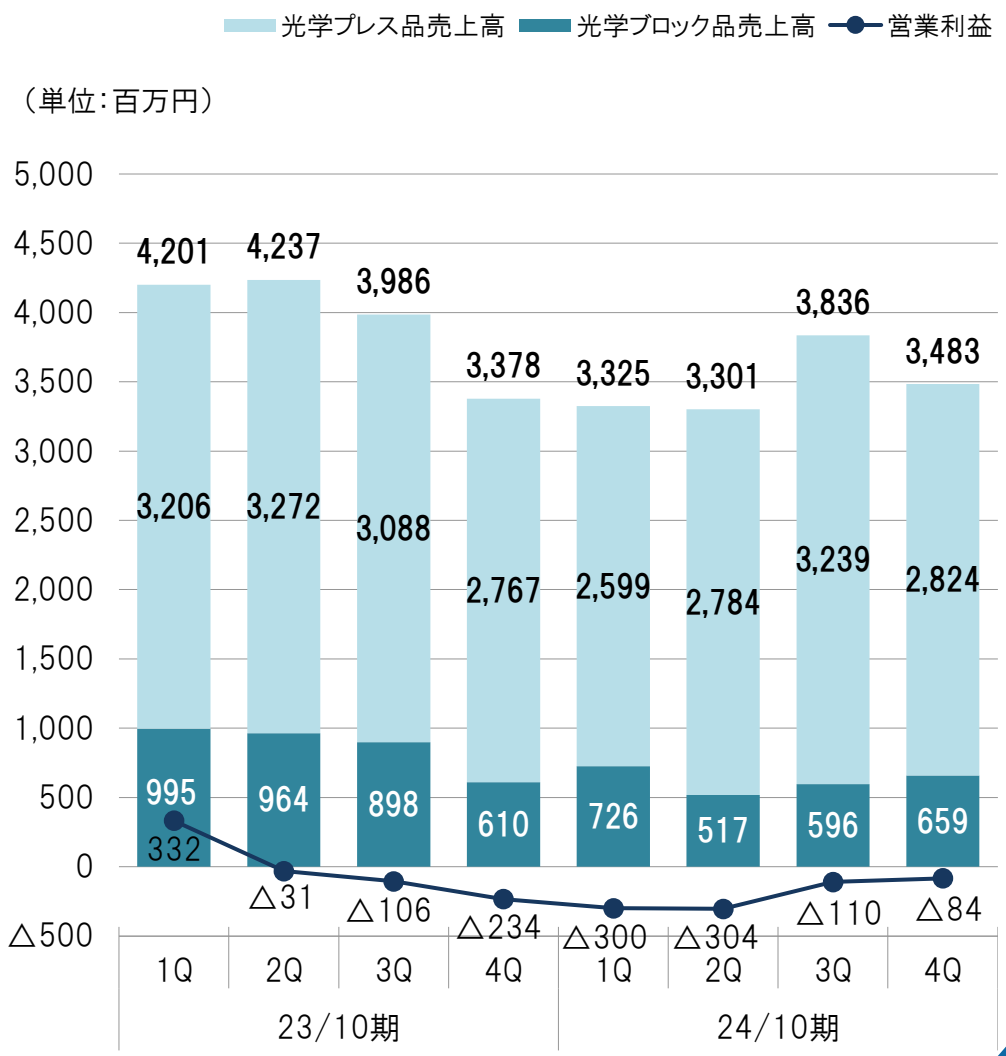
Copyright© 2024 OHARA INC. All Rights Reserved.

光事業

通期対比



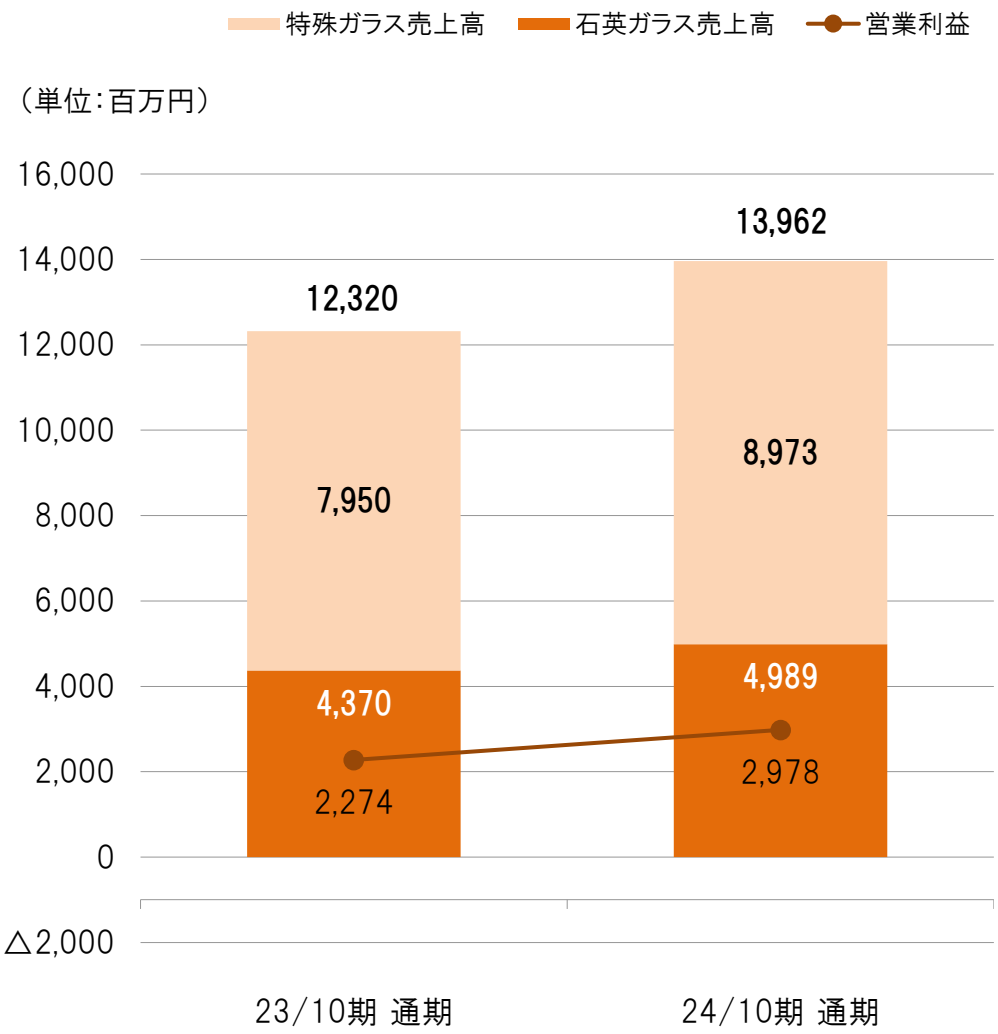
四半期推移



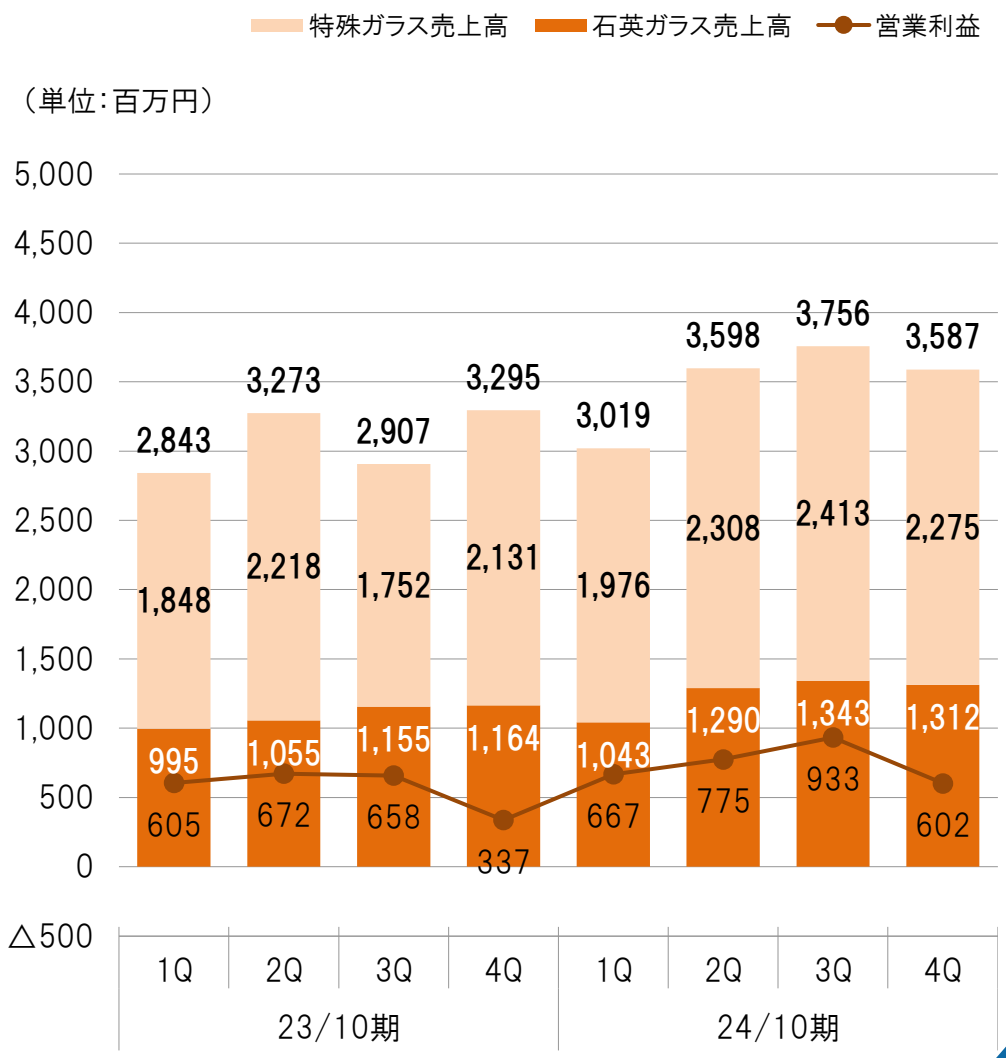
Copyright© 2024 OHARA INC. All Rights Reserved.

エレクトロニクス事業

通期対比



四半期推移

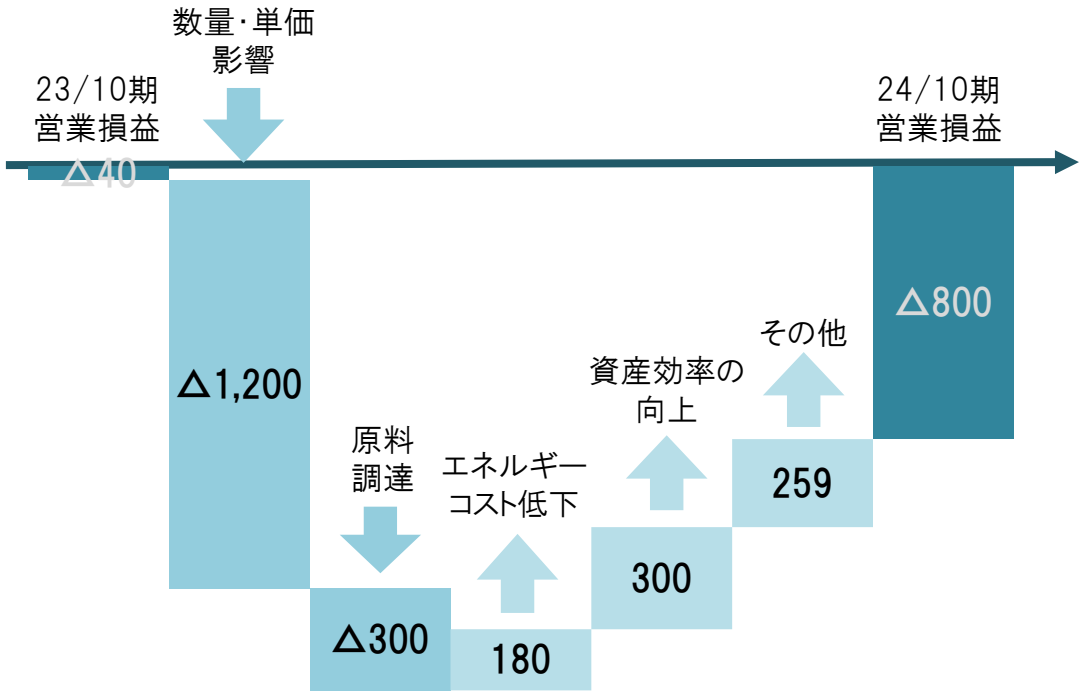


Copyright© 2024 OHARA INC. All Rights Reserved.

営業損益増減要因

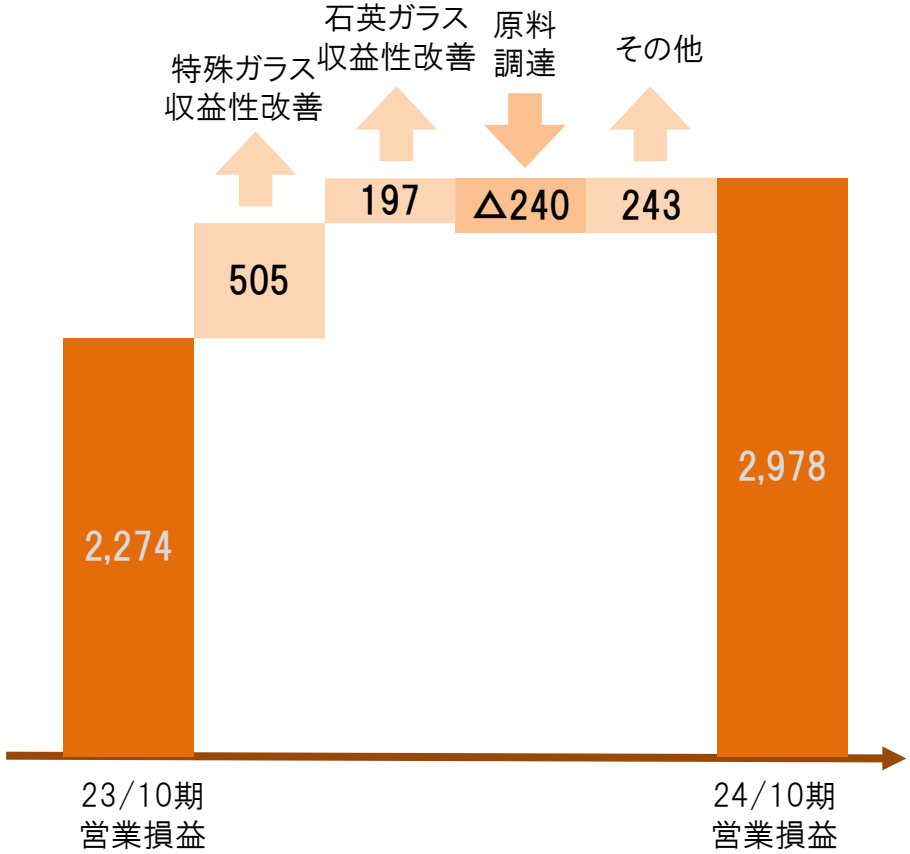
光事業

（単位：百万円）



エレクトロニクス事業

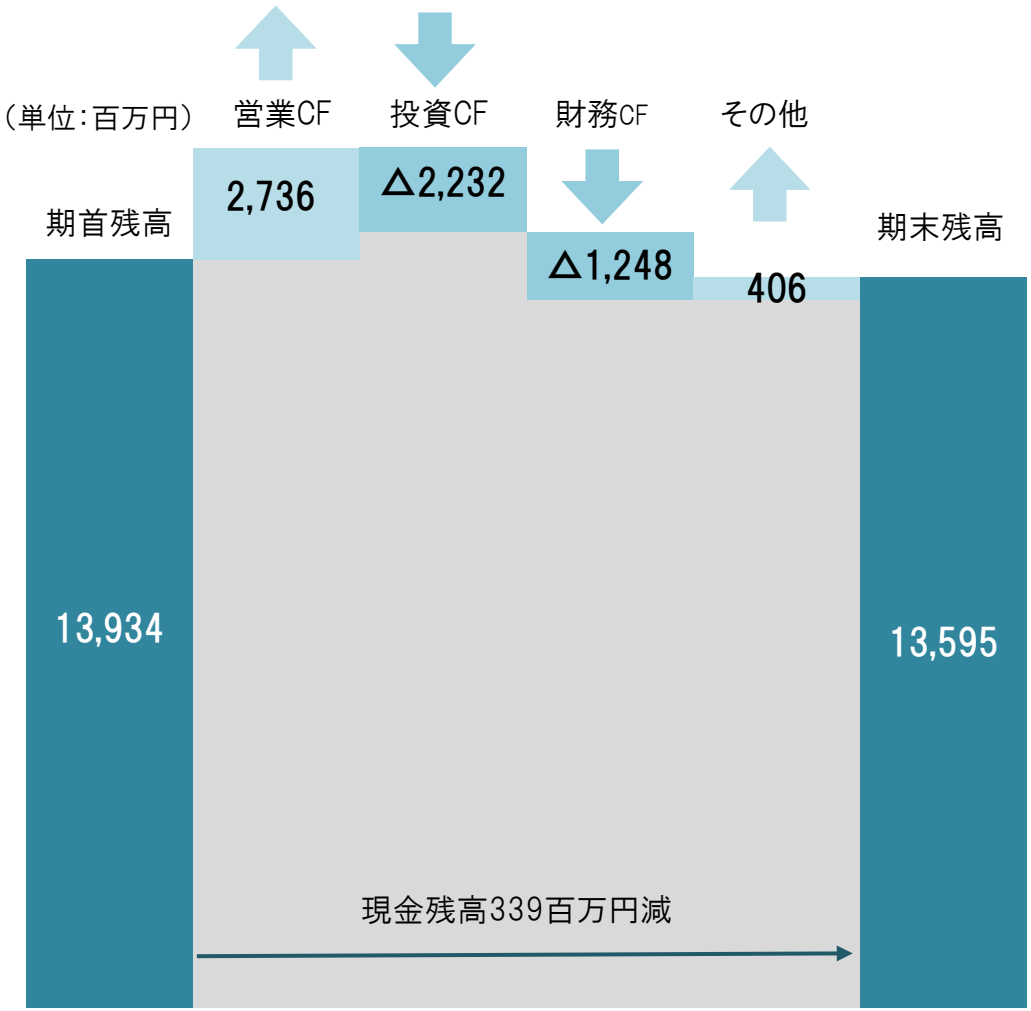
（単位：百万円）



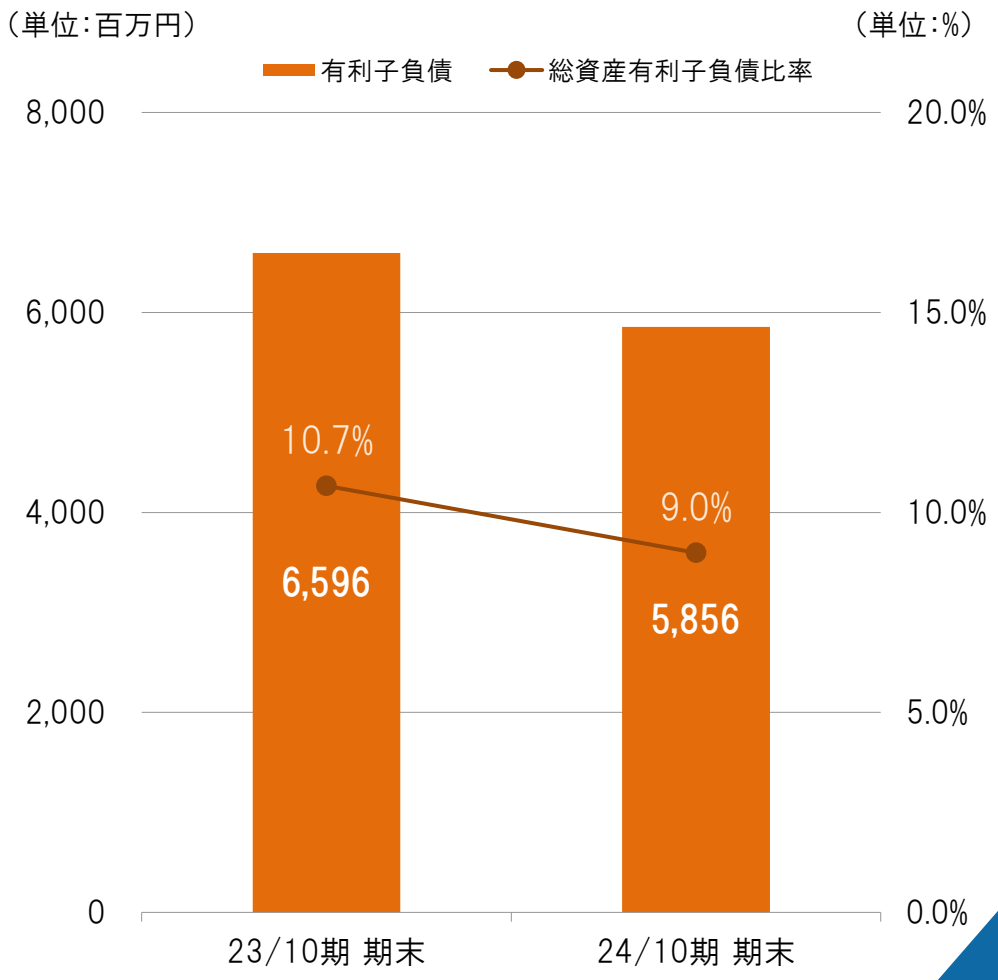
Copyright© 2024 OHARA INC. All Rights Reserved.

キャッシュ・フロー

増減要因



有利子負債



Copyright© 2024 OHARA INC. All Rights Reserved.

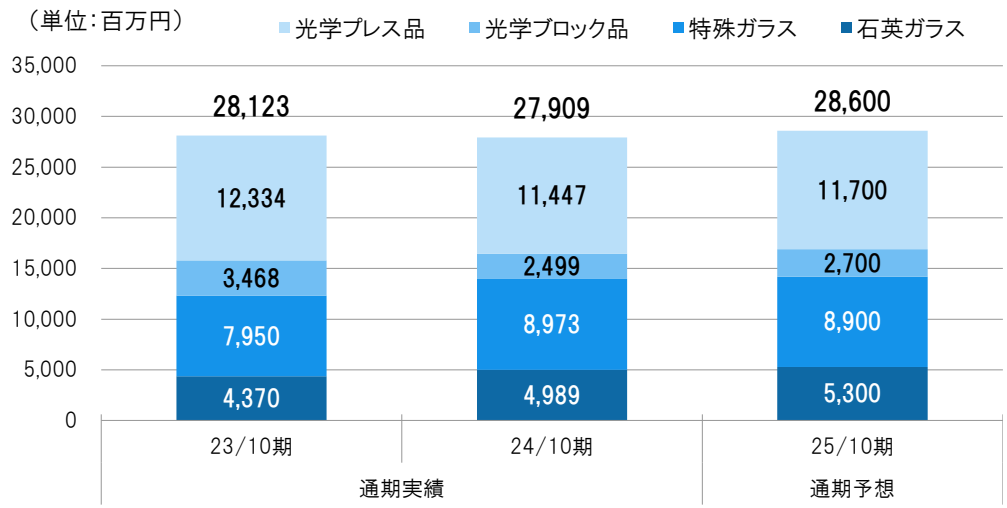
2025年10月期 業績見通し

見通しサマリー

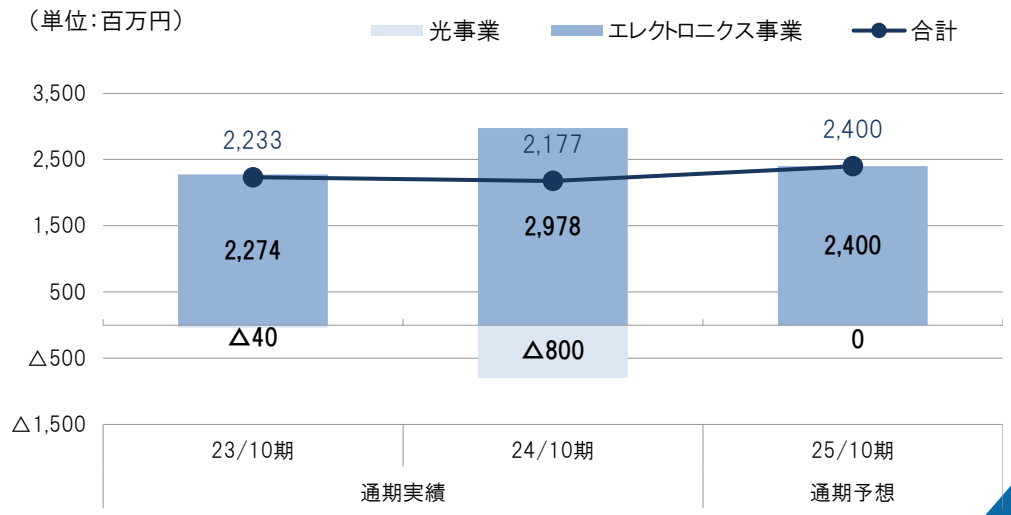
（単位：百万円、%）

	24/10期 通期	25/10期 通期予想	増減 増減率	25/10期 上期予想
売上高	27,909	28,600	690 2.5%	13,700
営業利益	2,177	2,400	222	800
[営業利益率]	7.8%	8.4%	10.2%	5.8%
経常利益	2,587	2,700	112	1,000
[経常利益率]	9.3%	9.4%	4.3%	7.3%
純利益 （親会社株主に帰属）	1,568	2,000	431	700
[純利益率]	5.6%	7.0%	27.5%	5.1%
為替レート 円／1USD 円／1EUR	期中平均 150.54 163.59	期中平均 145.00 155.00		
年間配当金 （円）	23.0	25.0		

売上高内訳



営業利益内訳



Copyright© 2024 OHARA INC. All Rights Reserved.

今後の事業環境について

光事業

■デジタルカメラ市場

ミラーレスカメラの新製品が需要を底支えしていることから、当面は横ばいで推移する見込み

■光学機器市場

画像認識技術や拡張現実技術の進展により、品質の高い光学ガラスに対するニーズが高まる見込み

エレクトロニクス事業

■半導体露光装置市場

生成AIやパワー半導体などは旺盛な需要が続いていることに加え、メモリ需要は回復基調となるため、
設備投資は堅調に推移する見込み

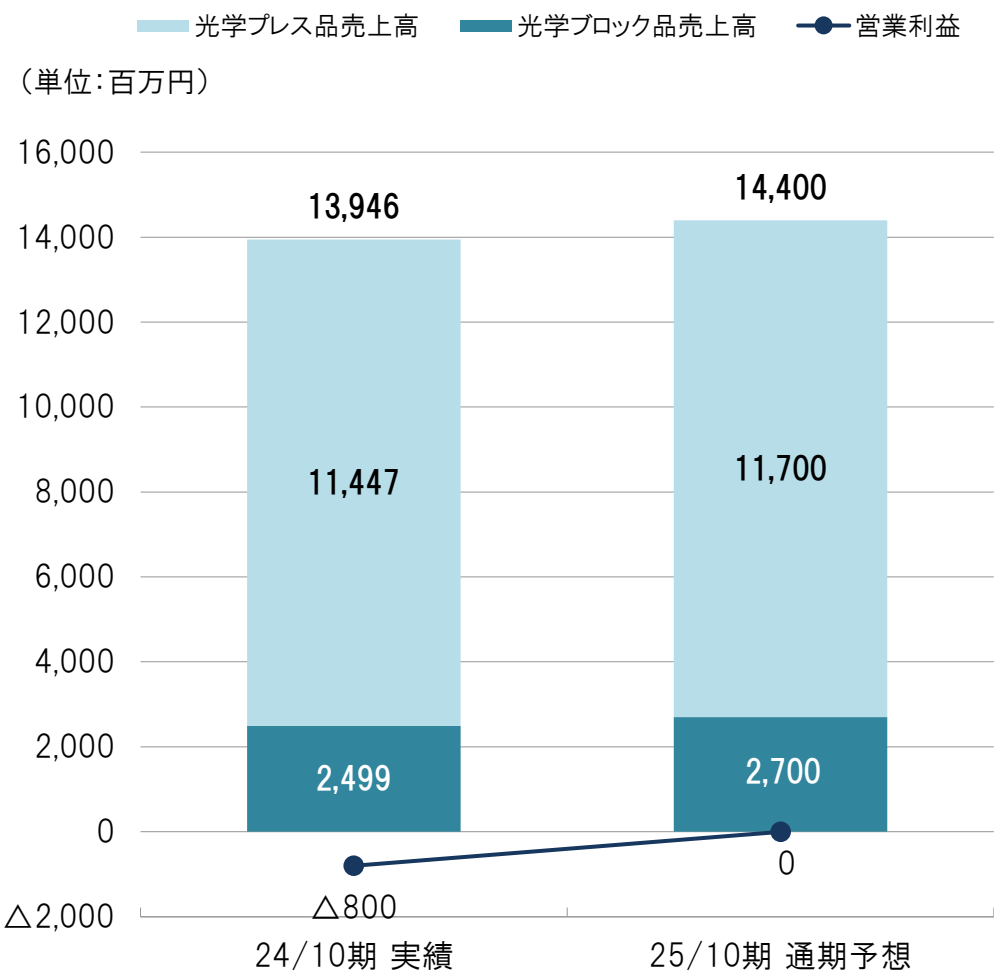
■FPD露光装置市場

大型設備投資案件は少ないものの、需要が改善する見込み

Copyright© 2024 OHARA INC. All Rights Reserved.

光事業見通し

通期対比



見通しのポイント

【売上高】

▸前期比+3.3%の増収見込み

▸24/10期第4四半期で交換レンズ用途の在庫調整はほぼ解消したため、今期は実需に見合った売上になる見込み

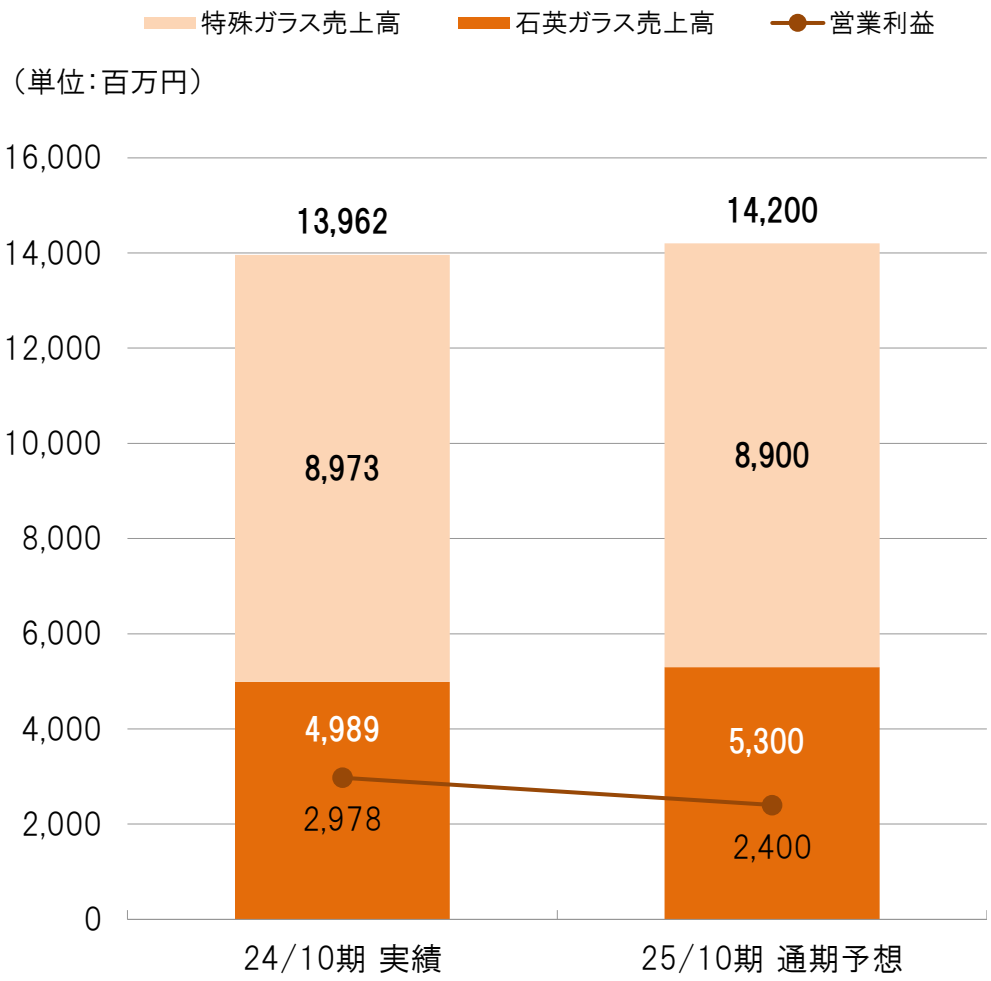
【営業利益】

▸生産設備の稼働率が良化して原価率が下がるため、前期比800百万円の改善の見込み

Copyright© 2024 OHARA INC. All Rights Reserved.

エレクトロニクス事業見通し

通期対比



見通しのポイント

【売上高】

- ▸前期比+1.7%の増収見込み
- ▸一部の半導体露光装置向けで、一時的に在庫調整となる見込み
- ▸低誘電ガラスの量産販売を本格的に開始する見込み

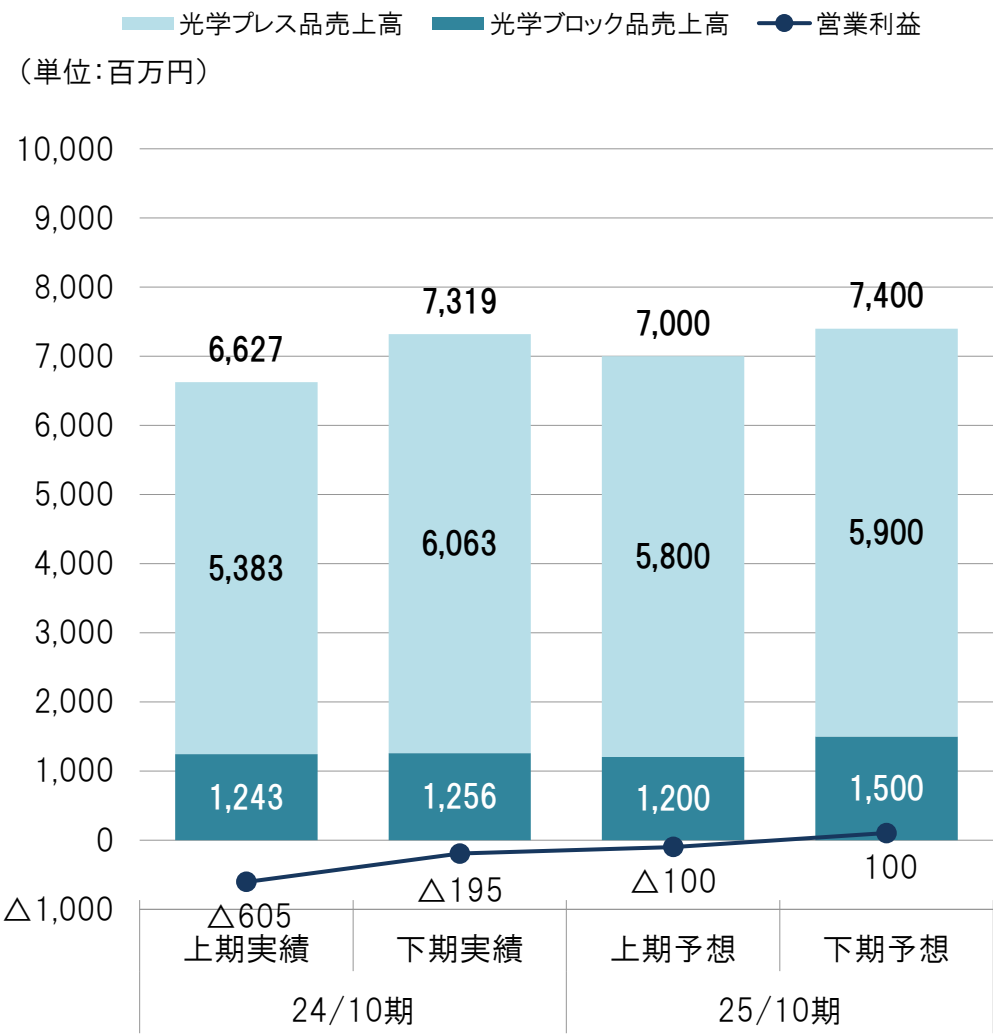
【営業利益】

- ▸前期比19.4%の減益見込み
- ▸高付加価値品の販売が減少するため、販売構成が変化する見込み

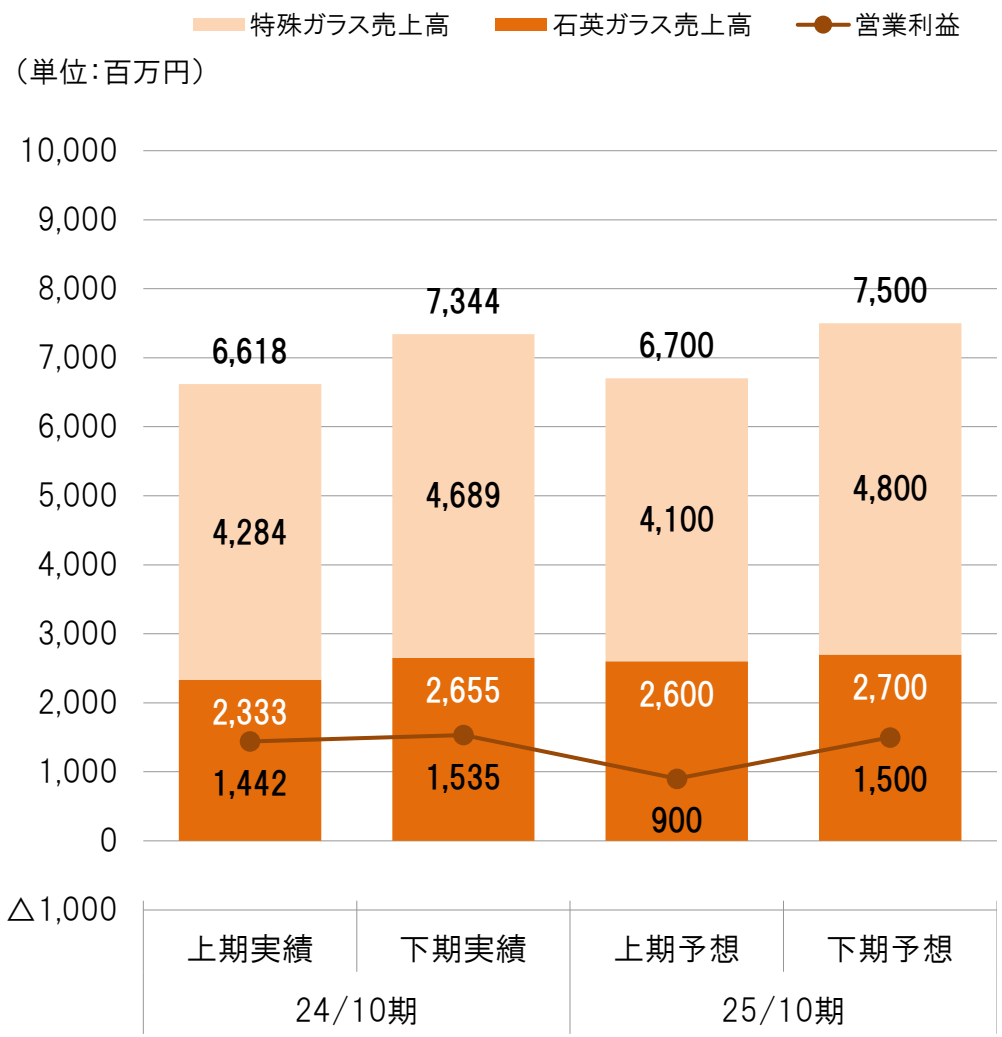
Copyright© 2024 OHARA INC. All Rights Reserved.

半期推移まとめ

半期推移



半期推移



Copyright© 2024 OHARA INC. All Rights Reserved.

電子基板用低誘電ガラス市場への参入（進捗状況）

OHARA

市場環境

- ▸生成AI用サーバーに搭載される電子基板の需要で大幅な成長が見込まれる
- ▸伝送損失を回避するため、低誘電ガラスが含まれた電子基板需要が増加
- ▸低誘電ガラス市場は年率20%程度の成長を見込む

低誘電ガラス市場規模のイメージ

当社取組み

光学ガラス需要が減少し、稼働率低下が続く生産設備を低誘電ガラス生産へ転換する

- ▸光事業の光学ガラス生産設備を低誘電ガラス生産設備へ転換し低誘電ガラスを生産、ファイバーメーカーへ販売
- ▸25/10期よりエレクトロニクス事業の売上に寄与、中期的（3年以内）に年10億円以上の売上実現を目指す

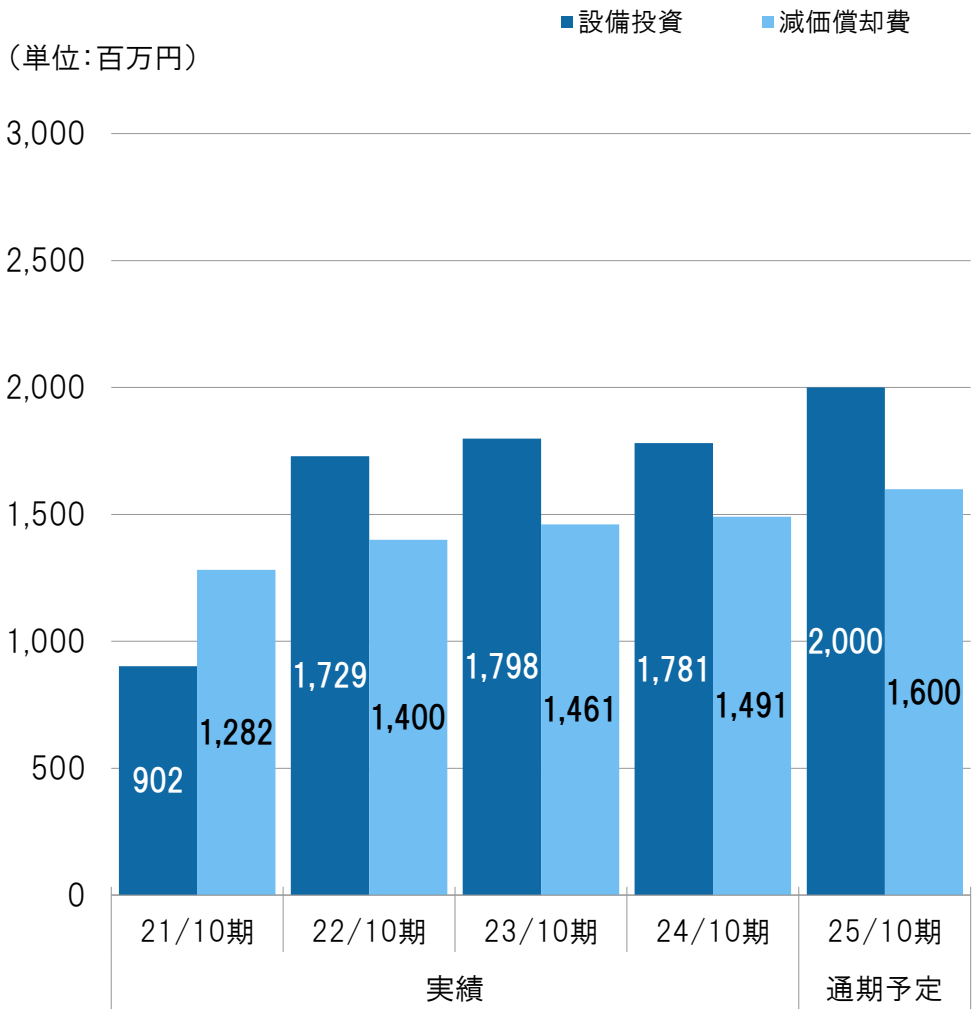
原料 → オハラ（ガラス熔解）低誘電ガラスの生産 → ガラスファイバー生産 → ガラスクロス生産 → 電子基板 → 生成AI用サーバーへ搭載

市場ニーズ
電子基板の伝送損失を回避するため、さらなる低誘電特性や耐久性のあるガラス材料が求められている。これら特性向上に寄与するガラス素材は高温熔解が必要でありオハラの熔解技術が活かせる領域

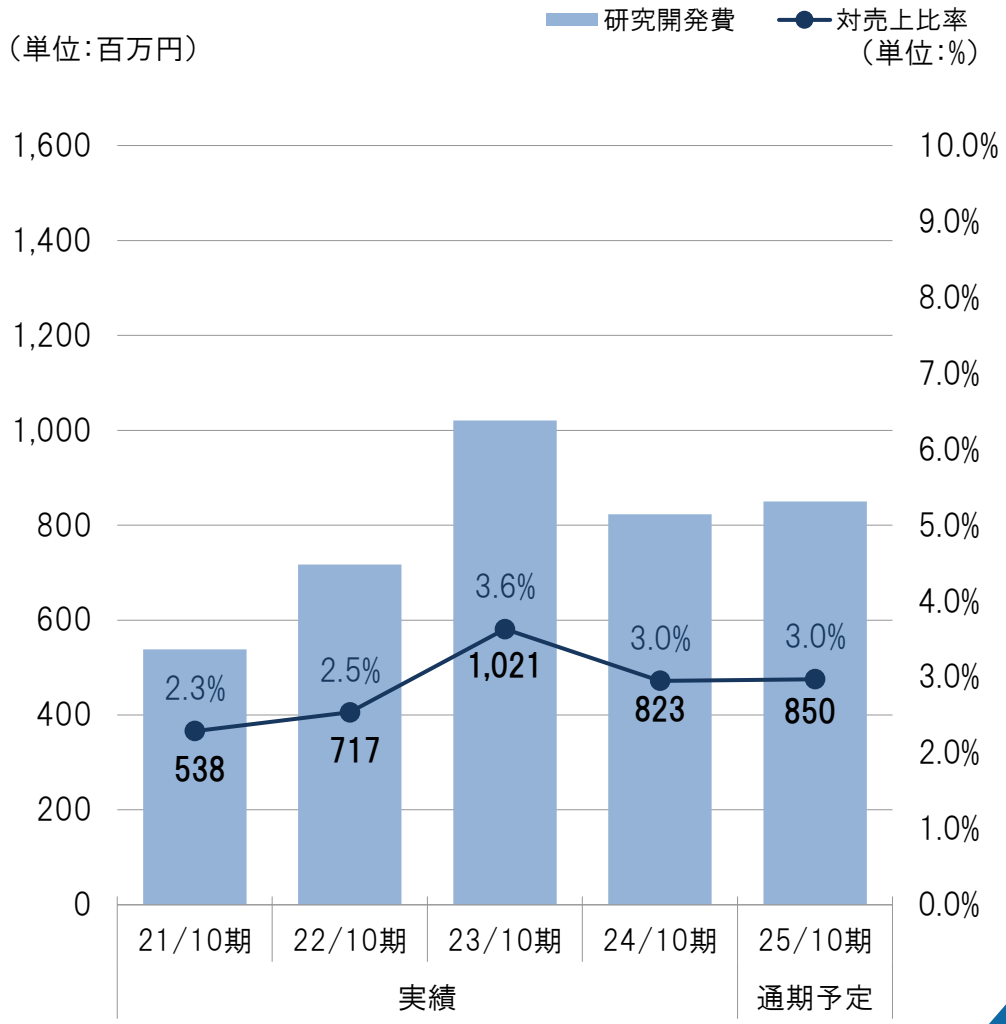
Copyright© 2024 OHARA INC. All Rights Reserved.

設備投資、減価償却費、研究開発費

設備投資、減価償却費



研究開発費

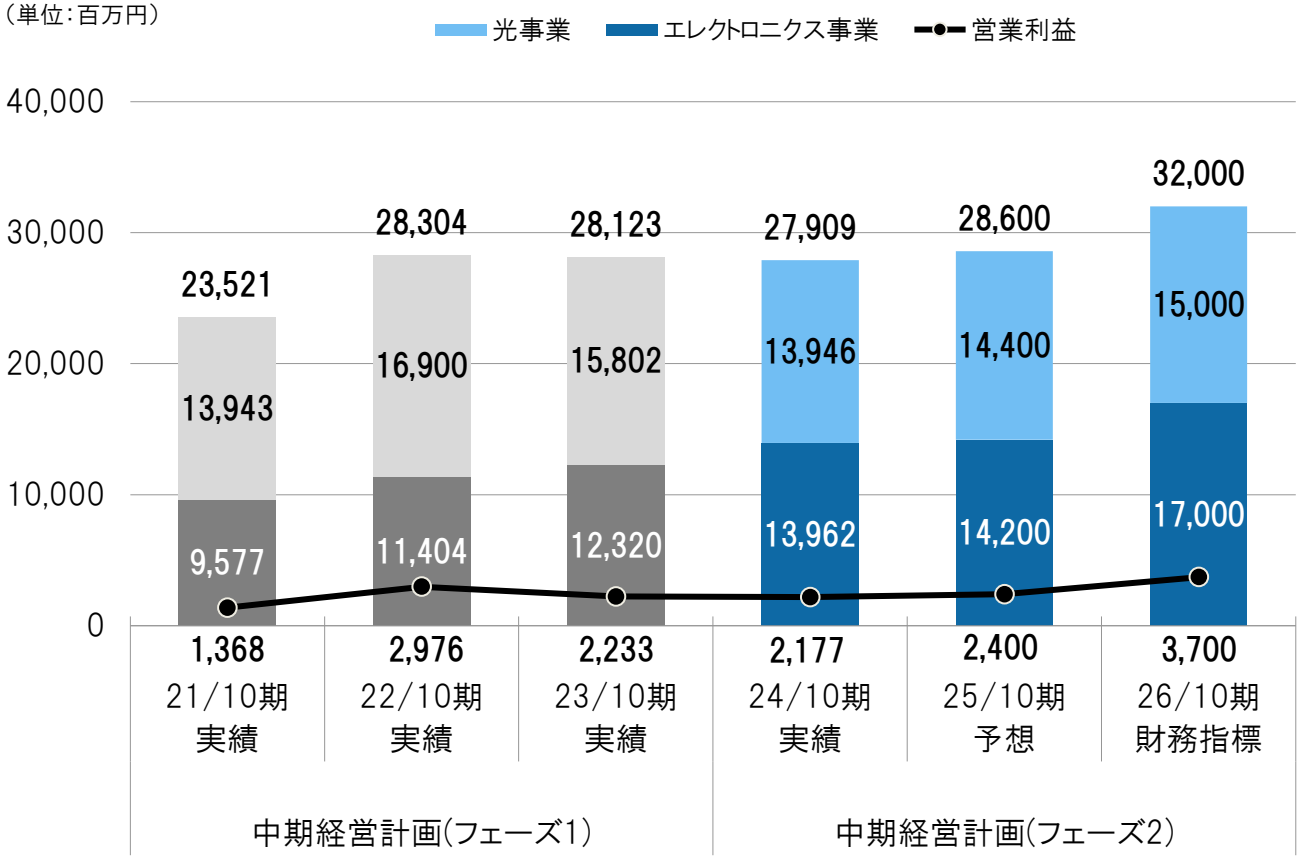


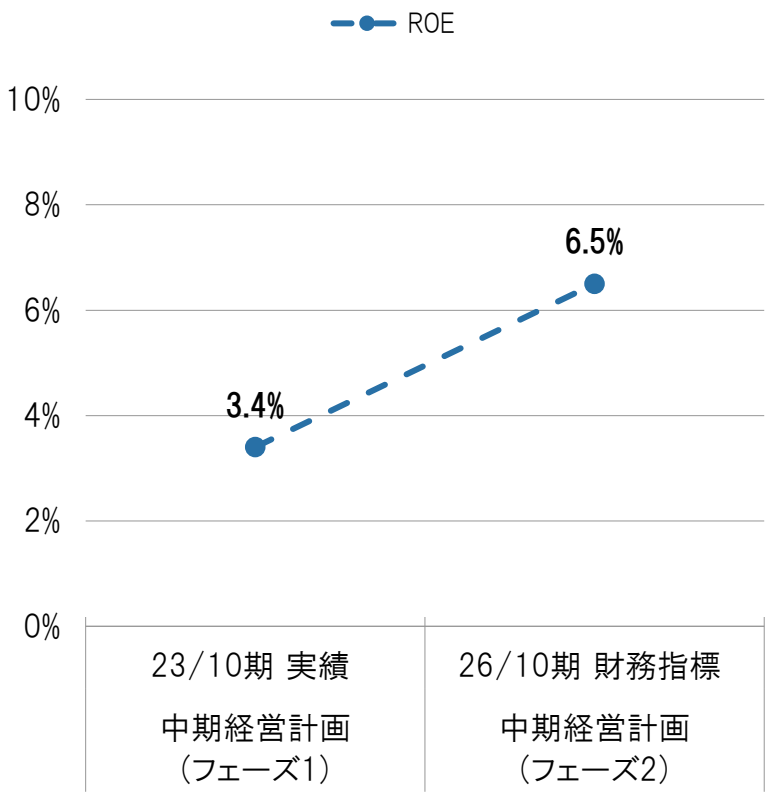
Copyright© 2024 OHARA INC. All Rights Reserved.

中期経営計画の進捗(1/2)

財務指標(2026年度10月期)

売上高320億円以上　営業利益37億円以上　ROE6.5%以上





Copyright© 2024 OHARA INC. All Rights Reserved.

中期経営計画の進捗(2/2)

OHARA

経営基盤の強化

新規事業の探索

既存事業の深化

	中期経営計画の進捗		課題
収益性の向上	【既存事業の強化】 ▸ 半導体露光装置向け高均質光学ガラス及び石英ガラスの供給能力を拡大	➡	▸ 海外顧客向けを中心に拡販活動を強化
	【新規事業の立ち上げ】 ▸ 液系リチウムイオン電池向け添加材*注1は顧客における試作評価が進展 ▸ ARグラス向けモジュールの開発を進めるベンチャー企業と資本業務提携	➡ ➡	▸ 顧客における量産採用に向けた生産体制及び販売体制を構築 ▸ ガラス素材の開発活動を加速し、競争優位性の高い製品をリリース
資産効率の向上	▸ 既存の生産工程を有効活用し、低誘電ガラス市場に新規参入、生産拠点間での生産品目組み換えに着手	➡	▸ 生産拠点間での生産品目組み換えに伴う生産設備の最適化により光事業の収益を改善
ESG経営の推進	▸ 省エネルギー活動、カーボンフリー電力の活用、熔解技術開発による温室効果ガス(GHG)削減を推進	➡	▸ 全固体電池材料といった環境配慮型製品の開発を通じたGHG削減への貢献

注1:リチウムイオン伝導性ガラスセラミックス「LICGC™」

- 戦略課題の実効性を高め、半導体などの成長分野での事業拡大や、リチウムイオンバッテリー、XR、低誘電ガラスといった新規分野での事業化を加速させるため、2025年2月に事業組織を改編
- 26/10期 財務指標達成に向け、光事業の収益性を改善、エレクトロニクス事業の成長を促進

Copyright© 2024 OHARA INC. All Rights Reserved.

Appendix（参考資料）

会社概要

OHARA

商　　号 ： 株式会社オハラ （OHARA INC.）
所　在　地 ： 神奈川県相模原市中央区小山1-15-30
創　　立 ： 1935年(昭和10年)10月1日
資　本　金 ： 58億5千5百万円
事業内容 ： 光及びエレクトロニクス事業機器向けガラス素材の製造、販売
従　業　員 ： 連結1,454名(単体474名) （2024年10月31日時点）
発行済株式総数 ： 25,450,000株
株　主　数 ： 9,113名 （2024年10月31日時点）

代表取締役社長執行役員
齋藤弘和

役員一覧

役名	氏名	職名
代表取締役社長執行役員	齋藤 弘和	経営全般
取締役専務執行役員	中島 隆	コーポレート統括
取締役専務執行役員	後藤 直雪	生産、技術統括
取締役常務執行役員	鈴木 雅智	事業部統轄兼事業企画室長
取締役(社外)	市村 誠	
取締役(社外)	戸倉 剛	
取締役(社外)	軒名 彰	
取締役(社外)	牧野 友香子	
常勤監査役	原田 洋宏	
監査役(社外)	米山 拓	
監査役(社外)	浅田 稔	
監査役(社外)	飯塚 良成	

大株主

（2024年10月31日時点）

	株主名	持株数（千株）	持株比率
1	セイコーグループ㈱	4,702	19.3%
2	キヤノン㈱	4,694	19.3%
3	京橋起業㈱	4,688	19.2%
4	三光起業㈱	1,651	6.8%
5	日本マスタートラスト信託銀行㈱(信託口)	1,465	6.0%
6	㈱トプコン	673	2.8%
7	セイコーインスツル㈱	610	2.5%
8	オリンパス㈱	400	1.6%
9	THE NOMURA TRUST AND BANKING CO., LTD. AS THE TRUSTEE OF REPURCHASE AGREEMENT MOTHER FUND	233	1.0%
10	株式会社日本カストディ銀行(信託口)	142	0.6%

※持株比率は、自己株式1,085千株(株式給付信託保有分含む)を控除して計算

Copyright© 2024 OHARA INC. All Rights Reserved.

グループ会社一覧

中国
小原光学(中山)有限公司

華光小原光学材料(襄陽)有限公司

日本
㈱オハラ

㈱オハラ・クオーツ

㈱オーピーシー

米国
Ohara Corporation

ドイツ
OHARA GmbH

香港
小原光學(香港)有限公司

マレーシア
OHARA OPTICAL(M)SDN.BHD.

台湾
台灣小原光學股份有限公司

台灣小原光學材料股份有限公司

Copyright© 2024 OHARA INC. All Rights Reserved.

沿革

1935 10月：小原甚八が小原光学硝子製造所を創立、東京蒲田にて操業開始
1936 11月：光学ガラス熔解開始
1944 2月：組織変更をして株式会社小原光学硝子製造所を設立
1946 3月：本社を神奈川県相模原市に移転
1954 5月：白金坩堝熔解開始
1958 4月：ランタンガラス生産開始
1961 1月：連続熔解ストリップ方式生産開始
1962 10月：足柄光学株式会社の株式取得
1969 7月：オハラガラス、アポロ11号に搭載
1975 8月：低屈折低分散ガラス（S-FPL51）生産開始
1981 8月：Ohara Optical Glass Inc.（米国）（現・Ohara Corporation）設立
1982 3月：オハラガラス、スペースシャトル・コロンビア号に搭載
1983 3月：ステッパー用ハイホモガラス（Δn_d±0.5～±1.0×10^{-6}）量産開始
1984 3月：高エネルギー物理学研究所へチェレンコフガラス納入開始
1985 5月：株式会社オハラに商号を変更
1987 1月：中華民國台中県に光学プレス品の製造及び販売を目的として台湾小原光学股份有限公司を設立
3月：紫外線（365nm）高透過ガラス生産開始
5月：有限会社オーピーシー（現・株式会社オーピーシー）設立
1988 8月：結晶化ガラス生産開始
1990 1月：OHARA GmbH（ドイツ）設立
1991 9月：環境対策光学ガラス生産開始
11月：OHARA OPTICAL（M）SDN.BHD.（マレーシア）設立
1993 3月：極低膨張ガラスセラミックス（クリアセラム™-Z）生産開始
1994 11月：ハードディスク基板用ガラスセラミックス生産開始
1997 3月：光学ガラス推奨112種類（当時）のすべてをエコ化
1998 4月：ISO9001認証取得
1999 1月：オハラガラス、すばる望遠鏡の主焦点カメラSCに搭載
2000 1月：低光弾性ガラス生産開始
4月：ISO14001認証取得
10月：真空紫外域屈折率測定受託サービス開始
2002 5月：小原光學（香港）有限公司設立
6月：大規模連続熔解開始
12月：小原光学（中山）有限公司（中国）設立
2005 10月：東京証券取引所第一部へ株式上場
2006 11月：ファイバー用エコガラス（内視鏡用など）生産開始
2007 2月：低蛍光ガラス（顕微鏡用など）生産開始
9月：オハラガラス、月周回衛星「かぐや（SELENE）」に搭載
2008 7月：株式会社オハラ・クオーツを連結子会社化
2011 3月：華光小原光学材料（襄陽）有限公司（中国）設立（合弁）
2012 3月：台灣小原光學材料股份有限公司設立
8月：オハラガラス、すばる望遠鏡の主焦点カメラHSCに搭載
2013 5月：リチウムイオン伝導性ガラスセラミックス（LICGC™）発売開始
2014 2月：ハードディスク用ガラス基板事業からの撤退
3月：極低膨張ガラスセラミックス（クリアセラム™-Z）、TMT天体望遠鏡に採用
2015 3月：非球面ガラスモールドレンズ量産供給開始
12月：耐衝撃・高硬度クリアガラスセラミックス（ナノセラム™）発売開始
2016 8月：リチウムイオン伝導性ガラスセラミックス（LICGC™）を使用した全固体電池試作品が-30℃で駆動
2017 5月：世界初、車載カメラ専用光学ガラス材発売開始
12月：極低膨張ガラスセラミックス（クリアセラム™-Z）、超低高度衛星技術試験機「つばめ（SLATS）」に採用
2018 6月：NEDO先進・革新蓄電池材料評価技術開発（第2期）へ参加
8月：非球面ガラスモールドレンズ新工場稼働開始
2019 1月：極低膨張ガラスセラミックス（クリアセラム™-Z）、キヤノン電子の超小型人工衛星初号機に採用
2月：極低膨張ガラスセラミックス（クリアセラム™-Z）、国内最大の望遠鏡「せいめい」に採用
3月：足柄光学株式会社を解散
2019 1月：極低膨張ガラスセラミックス（クリアセラム™-Z）、キヤノン電子の超小型人工衛星初号機に採用
2020 3月：オハラの固体添加材「LICGC™ PW-01」によりリチウムイオン電池の寿命が4 倍長持ち
2022 3月：耐衝撃・高硬度クリアガラスセラミックス『NANOCERAM™』が超小型光学衛星KITSUNEのカメラプロテクターとして採用

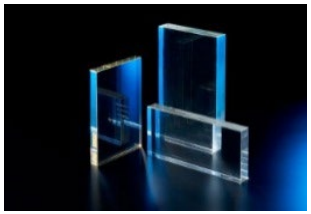
Copyright© 2024 OHARA INC. All Rights Reserved.

主要製品と用途①光事業

OHARA

主要製品

製品カテゴリ

光学プレス品	光学ブロック品
レンズブランクス 	
研磨プリフォーム （レンズ加工品） 	
ガラスモールドレンズ （GMO） 	

※光学ガラスを納品形態により分類。組成の種類（硝種）は約150種

売上高の用途別比率 （単位：%） ※当社想定

光事業	23/10期 累計	24/10期 累計
売上高（百万円）	**15,802**	**13,946**
交換レンズ（レンズ交換式カメラ）	55%	55%
プロジェクター	10%	10%
医療機器（内視鏡等）	10%	10%
車載カメラ	10%	10%
監視カメラ	10%	10%
その他	5%	5%
合計	100%	100%

Copyright© 2024 OHARA INC. All Rights Reserved.

主要製品と用途②エレクトロニクス事業

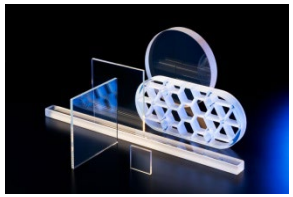
OHARA

主要製品

製品カテゴリ

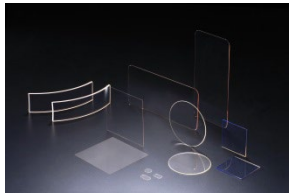
特殊ガラス

極低膨張ガラスセラミックス
クリアセラム™-Z

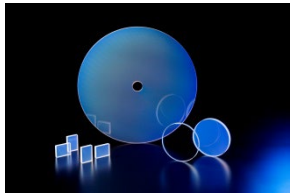


線用高均質性
光学ガラス

耐衝撃・高硬度
クリアガラスセラミックス
ナノセラム™



光通信機器向け
ガラス素材
WMS™-15



リチウムイオン伝導性
ガラスセラミックス
LICGC™

石英ガラス

売上高の用途別比率 （単位:%） ※当社想定

エレクトロニクス事業	23/10期 累計	24/10期 累計
売上高(百万円)	**12,320**	**13,962**
半導体露光装置(レンズ、構造部材)	40%	45%
FPD露光装置(レンズ、ミラー材)	5%	5%
半導体フォトマスク	10%	5%
光通信機器(DWDMフィルター材)	5%	5%
プロジェクター(TFT基板材)	5%	—
宇宙・天文	—	5%
その他	35%	35%
合計	100%	100%

Copyright© 2024 OHARA INC. All Rights Reserved.

理念体系

OHARA

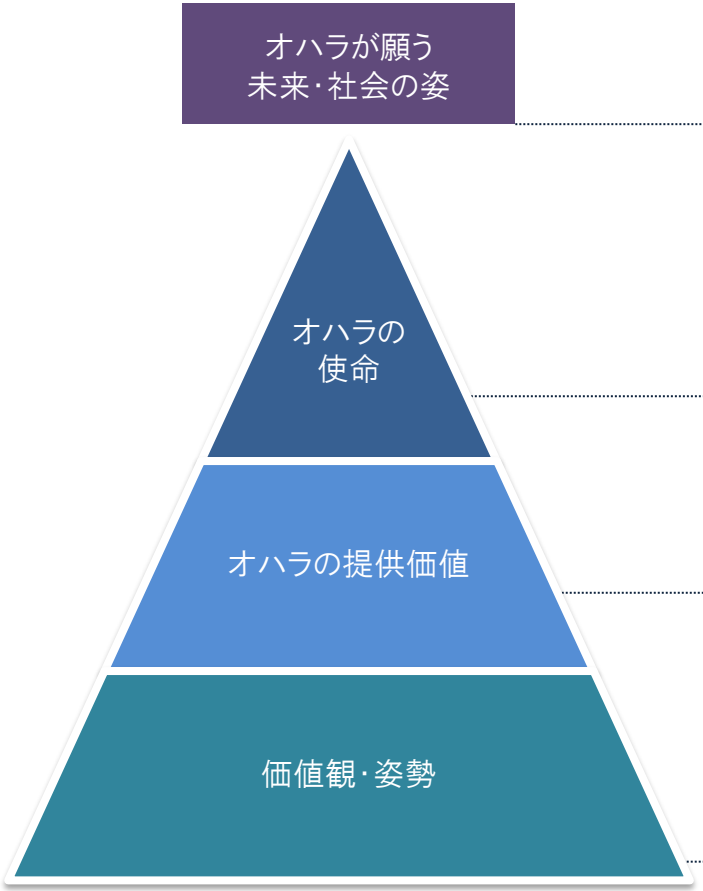
経営理念

オハラグループは、常に個性的な新しい価値を創造して、強い企業を構築し、
オハラグループ全員の幸福と社会の繁栄に貢献します。

コーポレート・メッセージ

ブランドスローガン

ひかる素材で、未来をひらく



安心で快適な生活。
創造と希望にあふれた社会。
健やかな地球。

いつの時代も新たな素材の可能性を追求し、
多様なパートナーとともにかたちにすることで、
「生活・文化の向上」「フロンティア開拓」「地球環境の改善」に貢献する。

ひかる素材で、お客様の「できる」につなげる。

真摯に向き合う
妥協なきものづくり
挑戦のグッドサイクルを回す
All OHARAでいく
互いに認め合い、成長しよう

Copyright© 2024 OHARA INC. All Rights Reserved.

ひかる素材で、未来をひらく

OHARA

- ◆ 本資料は情報の提供を目的としており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料（計画を含む）は、現時点で入手可能な信頼できる情報に基づいて当社が作成したものでありますが、リスクや不確実性を含んでおり、当社はその正確性・完全性に関する責任を負いません。
- ◆ ご利用に際しては、ご自身の判断にてお願いします。本資料に記載されている見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失に関しても、当社は責任を負いません。
- ◆ この資料の著作権は株式会社オハラに帰属します。いかなる理由によっても、当社に許可無く資料を複製・配布することを禁じます。